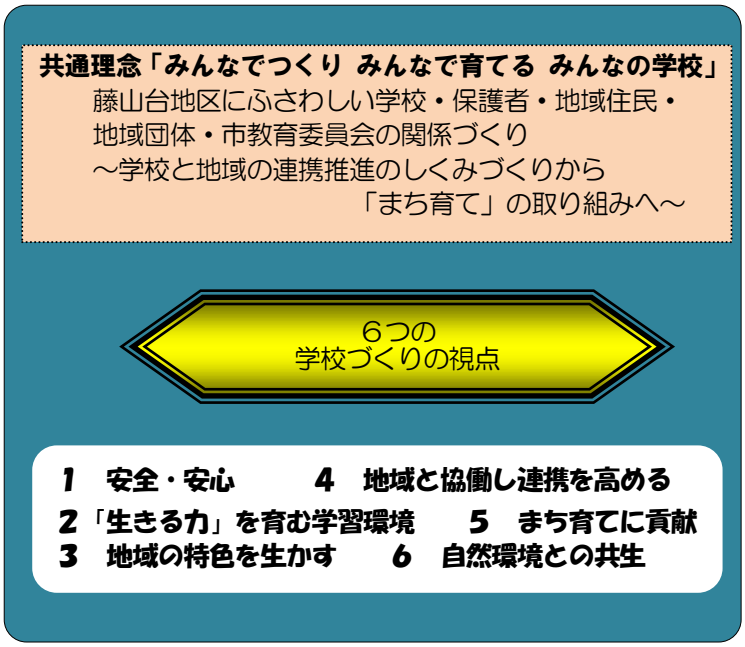
統廃合から始まった学校支援地域本部の取組

～「みんなでつくり　みんなで育てる　みんなの学校」を目指して～

春日井市教育委員会学校教育課　　課長補佐　　大城　達也
藤山台中学校区学校地域連携協議会（ゆめふじ連携協議会）
地域コーディネーター　阿部　國枝・川田　和美

１　取組の目的・経緯



春日井市では、平成 21 年 12 月に「小中学校の適正規模等に関する基本方針」を作成し、平成 22 年６月より、藤山台地区の学校規模適正化について、小中学校・ＰＴＡ・町内会・その他関係者と議論を始めました。そして、当地区の３小学校を１校に統合し１小１中とすることを決め、新小学校づくりについて意見集約を行いました。そのような経過を経てうまれた新小学校のコンセプトが、「みんなでつくりみんなで育てる　みんなの学校」です。

このコンセプトを具現化すべく、藤山台中学校区学校地域連携協議会が、開校年の平成 28 年４月に設置されました。藤山台小学校内に必要な事務備品を備えた専用の事務局室（地域連携室）を設置した結果、学校と地域の連携がスムーズになるとともに、学校支援ボランティアの交流の場ともなり、現在では、学校支援地域本部が学校・家庭・地域住民・地域団体を巻き込んだ幅広い活動の場になっています。この地域連携室は、セキュリティを分離し鍵を貸与することで、その都度学校の許可を得ることなく、365 日 24 時間使用可能としています。

２　主な取組の概要

(1) 事業の目的

「ゆめふじ連携協議会」では、藤山台中学校及び藤山台小学校の教育活動の充実及び発展のために、また、新藤山台小学校の学校づくりのコンセプトである「みんなでつくり　みんなで育てる　みんなの学校」を実現するために、学校、保護者、地域住民及び関係諸団体が協力し、学校が地域と協働して連携を高めることを、さらには、まち育てに貢献することを目的として活動しています。

(2) 登下校見守り活動の実施

ゆめふじ連携協議会が出来る前から、多くの団体や個人が個別に実施していましたが、情報共有不足から、地域内で手厚い場所とそうでない場所が顕著でした。そこで、コーディネーターを始めとしたゆめふじ地域連携協議会のメンバーが、個別に活動していた団体や個人を「繋ぎ」、緩やかなネットワークであ

る「藤っこ応援団」を形成しました。「藤っこ応援団」の皆さんは、毎月２回、登校見守り後に事務局室へ集まり、メンバー同士の情報交換を行い、子どもたちの様子や危険箇所などを出し合い、学校に伝えることがあれば、地域コーディネーターがその都度学校に報告しています。

また、「藤っこ応援団」のみなさんが定期的に学校を訪れるようになることで、学校の現状を理解し、他の支援活動の貴重な担い手になるなど、特定の個人に偏りがちであった活動が「総合化」しています。

＜成果・効果＞

・ネットワーク化と情報共有で、自分たちで見て回り、選んだ危険箇所で見守りが可能になった。
・月２回の情報交換会が、メンバー同士のコミュニケーション作りにつながった。
・子どもたちとの信頼関係ができ、お互い笑顔で挨拶できるようになった。
・今まで敷居が高かった学校を定期的に訪れることで、学校の現状を理解し、その他の活動の担い手になった。

(3) 環境支援活動の実施

学校の先生が担っていたり、苗植え時にのみの手伝いが多かった学校花壇整備を、ゆめふじ連携協議会が募集した環境ボランティアが担っています。どのような苗を植えるのか、苗はどこから手に入れるのか、日々の水遣りはどうするのか等、完全に自立して活動しています。

＜成果・効果＞

・授業準備や児童と触れ合う時間が増えた先生から感謝の声があがった。
・花好きなボランティアさんの自立した活動が、花のまちづくりコンクールで奨励賞を受賞するなど、活動が深化した。
・花のある学校環境で、子どもにも落ち着きがでてきた。
・ボランティアと児童の交流が生まれ、ボランティアの励みになった。

(4) 放課後の居場所作り活動の実施

児童の自主性を高め、幅広い成長を促すとともに可能性を広げるため、概ね月１回程度、土曜日を有効活用した多様な活動＝「土曜チャレンジ・アップ教室」を実施しています。企画、ボランティア講師との調整を地域コーディネーターが、当日の運営補助等を地域ボランティアが担い実施しています。また、この活動でボランティア講師をした地域住民による、定期的な将棋教室も始まり、土曜日を有意義に過ごす児童が増えています。

＜成果・効果＞

・ただ楽しいだけでなく、理科の実験等、授業とリンクする内容を盛り込むことで、教科への関心がアップした。
・地域の貴重な人材が、ボランティア講師として活躍し、生きがいとなった。
・親父の会などの他団体とのコラボでネットワークができ、他の支援活動でも協働するようになった。

(5) バザーの実施

活動資金の一助とするため、バザーを実施しました。不用品の提供を呼びかけたほか、学校花壇整備と平行して学校菜園を実施し、そこで収穫されたサツマイモ等や地域の方が育てた野菜を無償で譲っていただき販売しました。売り上げは、日頃活躍している学校支援ボランティアの方を学校給食に招待して、児童と触れ合う機会の資金としたり、花壇用の肥料を購入するなど、ゆめふじ協議会の運営資金の一部として、有効に活用しました。

＜成果・効果＞

・自由になる資金を得たことで、行政ではお金が出しにくい、人間関係をスムーズにする、お金の使い方ができるようになった。

(6) 地域コミュニティーの創設

ゆめふじ連携協議会で出会った人々が、地域コミュニティー創設に向けて活動し、地域の大運動会を開催しました。600 人近くの参加者が集い、以後、毎年開催される行事となりました。また、その開催を担う組織として、市内で 18 番目の「藤山台小学校区体育振興会」が設立され、地域でのグランドゴルフ大会開催など、地域スポーツの振興が進んでいます。

＜成果・効果＞

・地域のために何かしたい人が出会って、新しい地域コミュニティーが誕生！
・藤山台地区が、学校の統合を機に、1 つになる気持ちが醸成された。

(7) 今後の予定

新校舎で汚れが目立つトイレについて、児童・PTA・地域住民が協力して、トイレ大掃除を実施予定です。また、今後の学習支援活動を見据えて、「夏休みの宿題をしよう」を設定し、元教員等の地域住民が宿題をみようと計画しています。

3　ゆめふじ連携協議会の概要

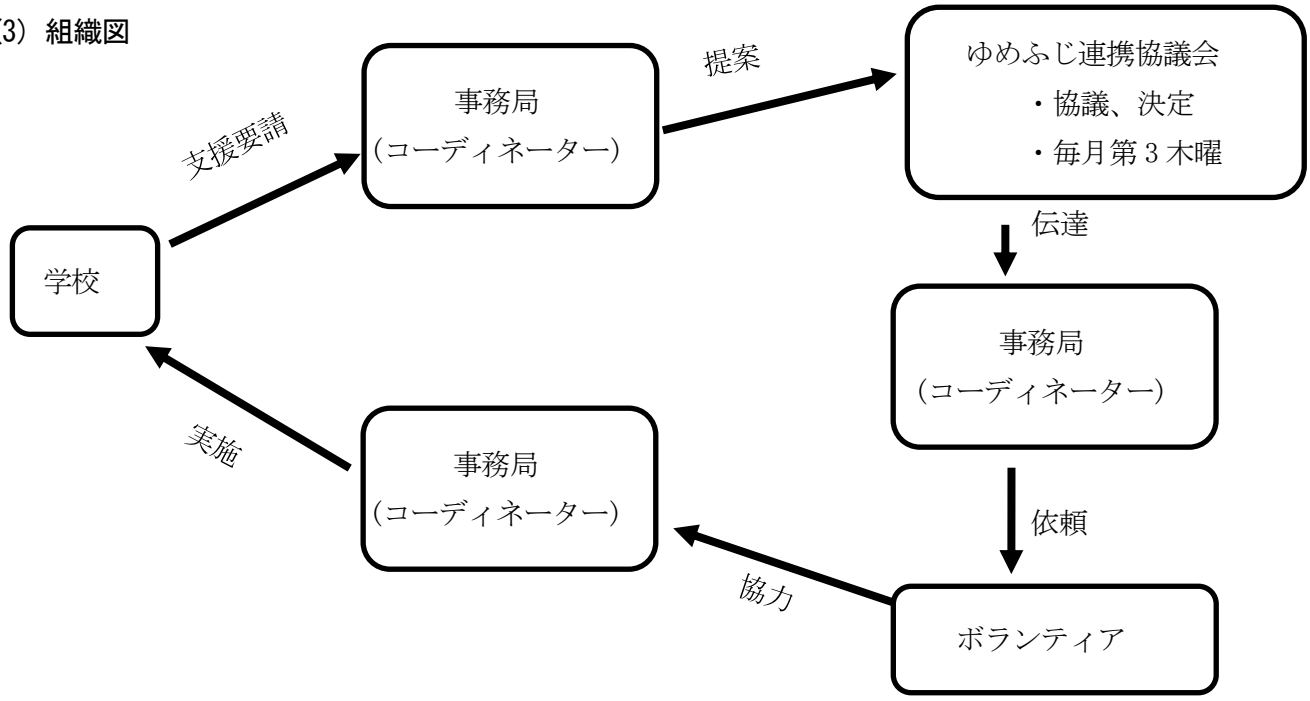
(1) 構成員

小中学校長、小中学校 PTA 役員、町内会等の役員、地区社会福祉協議会の役員、幼稚園長、少年指導員、地域防災会役員、体育振興会役員、学校支援ボランティア代表の、総計 12 人です。また、協議会を支える事務局に、事務局長（地域住民）、地域コーディネーター、事務局スタッフとして PTA 役員経験者や地域住民が参加しています。

(2) 主要な具体的活動

ゆめふじ連携協議会は、毎月第３木曜日の午前中に地域連携室で開催しています。学校の状況を共有しながら、具体的な支援活動の是非について議論し、実施の有無を決定しています。また、この連携協議会の開催１週間前程度に事務局会議を開催し、地域コーディネータが収集した学校の支援ニーズに対して何が出来るか検討しています。

(3) 組織図



４　課題と今後の方向性

地域コーディネーターを中心に、地域がそれぞれの立場や組織で、何をすべきか、何ができるかを考え、当事者意識をもって活動できるようになってきています。参加された方は、児童との交流をとおして元気を貰うだけでなく、顔と顔とが分かるナナメの関係（利害関係のない第三者の関係）を築いた地域住民が、安心して児童の本音を引き出し、児童の悩みに寄り添ったり、さらに広い世界をみせたりする萌芽が出始めています。

一方学校は、地域への配慮から慎重になり、まずは自分たちでという意識が強いと、なかなか支援ニーズが出せない場合があります。例えば、地域運動会には、中学校ボランティアが大活躍しています。ボランティア募集に対して、すぐに上限に達してしまうほど人気が高いのですが、学校は地域に失礼があってはならないと､事前にボランティアの心構えを生徒に指導しています｡これは大変ありがたいことではありますが、教員の負担になっている部分もあります。(当日の引率等も含めて)

何が失礼にあたるのか、それは人によって違うかもしれませんが、社会常識はあります。そういった事を学ぶ場であると考えるなら、特別な準備なく参加して、失礼があれば地域の方が教える、これもまたよいのではないでしょうか。しかしながら、仮にそのようにした場合、残念ながら、一部の方から学校に指導不足というご意見を頂いてしまいます。ですが、それを恐れず、学校と地域が信頼し協働していく姿勢が何よりも重要ではないかと感じます。

また、ゆめふじ連携協議会の次代を担う人材の育成、確保に課題があります。現在の主要メンバーは、ゆめふじ連携協議会の目的を充分理解し、時間をかけてその想いを共有してきました。この活動の基礎となる信頼関係の醸成には、一定の時間が必要だと考えています。校長先生や教頭先生を含めた学校の担当者、行政の担当者が異動しても、この連携活動が継続していく仕組みはできました。あとは、その仕組みを活用する人の想いによって、連携活動が進むこともあれば後退することもあるのではないかと思います。つまり、想いを共有できる人の育成、確保こそ、今後の鍵となると考えています。

地域と学校が本音で信頼しあって協働できるようにすること、また、この活動が持続的に進んでいくためにも、より多くの学校関係者、行政職員、地域住民に想いを伝え巻き込んでいくことが、次なる一歩だと信じて歩んでいきたいと思います。